

授業科目	授業番号： 184			担当者	小林 朋子
	比較文学			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「対話」的文学論で読む世界の文学</p> <p>【概要】現代アメリカを代表する作家トニ・モリスンの『ベラヴド』と、世界各国の様々な時代またジャンルの文学を比較検討することで、人類の文化の全体像にせまる。本講義が基本姿勢としているのは、ロシアの思想家バフチンが述べた「対話」の概念である。あるイデオロギーの存在を認めつつ、それとは対立する別のイデオロギーの存在も容認することを彼は促したが、本講義ではこの「対話」の思想をベースに各国の文学を対等な関係に置いて、その衝突、交流、混合を比較検討する。履修者は授業で紹介するテキストを丁寧に読み、そこから問題点を抽出し、その</p> <p>【到達目標】比較文学の研究方法を習得する。図書の構造的読解力、情報を調査し活用する能力を向上させる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) Toni Morrison Beloved Plume-Penguin Putnam, 1998. 左記以外も授業で随時紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 イン트로ダクション：対話的文学論とは</p> <p>第 2 回 Beloved と神話批評</p> <p>第 3 回 Beloved とウィネバゴ・インディアン神話（1）</p> <p>第 4 回 Beloved とウィネバゴ・インディアン神話（2）</p> <p>第 5 回 Beloved とヨルバ族神話</p> <p>第 6 回 大衆文化の中のトリックスター</p> <p>第 7 回 名称付与とは何か</p> <p>第 8 回 Beloved と「千と千尋の神隠し」（1）</p> <p>第 9 回 Beloved と「千と千尋の神隠し」（2）</p> <p>第 10 回 Beloved と「千と千尋の神隠し」（3）</p> <p>第 11 回 言語の表象不可能性</p> <p>第 12 回 Beloved と井上ひさし『父と暮せば』（1）</p> <p>第 13 回 Beloved と井上ひさし『父と暮せば』（2）</p> <p>第 14 回 Beloved と井上ひさし『父と暮せば』（3）</p> <p>第 15 回 レポートのテーマ報告会とまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	授業への参加態度（10%）、テーマごとに提出する小レポート（30%）、最終レポート（60%）				
実務経験について	なし				